介護職員初任者研修情報開示資料

研修機関情報	法人情報	● 法人格・法人名称・住所等 株式会社　土屋 岡山県井原市井原町 192 番地 2 久安セントラルビル 2 階 代表取締役　大山　敏之 ● 代表者名、研修事業担当理事・取締役名 取締役 兼　土屋ケアカレッジ代表 五十嵐　憲幸 詳細はホームページ参照。 https://tcy.co.jp/
	研修機関情報	● 事業所名称・住所等 土屋ケアカレッジ札幌教室 〒003-0002 北海道白石区東札幌二条 5 丁目 7-8 3D コート 3A 号室 ● 理念 介護に携わる者が、業務を遂行する上で最低限の知識・技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを身につけ、基本的な介護業務を行うことができるようにすることを目的として実施する。 ● 学則 別紙「学則」参照 ● 研修施設、設備 別紙「研修会場一覧」「使用備品一覧」参照
研修事業情報	研修の概要	● 対象 別紙「学則」第 6 条とおり ● 研修のスケジュール（期間、日程、時間数） 別紙「学則」第 3 条、第 5 条　参照 別紙「スケジュール表」とおり ● 定員（集合研修、実習）と指導者数 定員　20 名　　指導者数：19 名 ● 研修受講までの流れ（募集、申し込み） 別紙「学則」第 12 条とおり

		● 費用 別紙「学則」第 7 条とおり ● 留意事項、特徴、受講者へのメッセージ等 ・留意事項 　別紙「学則」第 23 条　参照 ・特徴 　通学 13 日間、自宅学習全 4 回を一緒におこなっていただく研修です。 実技試験、筆記試験をおこない、総合的に評価し合格となった場合には、修了証を発行いたします。 修了証はご自宅へ後日郵送いたします。 ・受講生の方へ 困ったこと、不安なことがありましたらお気軽にお問い合わせください。
	課程責任者	● 課程編成責任者名 土屋ケアカレッジ札幌教室 課程編成責任者　加納　康行
	研修カリキュラム	● 科目別シラバス 別紙「カリキュラム(通信課程)」参照 ● 科目別時間数 別紙「カリキュラム(通信課程)」参照 ● 科目別担当教官名 別紙「講師一覧」参照 ● 科目別特徴　演習の場合は、実技内容・備品、指導体制 ・科目別特徴および実技内容 別紙「添削指導及び面接指導の指導方法書」参照 別紙「カリキュラム(通信課程)」参照 ・備品について 別紙「使用備品一覧」参照 ・指導体制について 別紙「添削指導及び面接指導の指導方法書」参照

		● 科目別通信・事前・事後学習とする内容及び時間 別紙「カリキュラム(通信課程)」とおり ● 通信課程の教材・指導体制・指導方法・課題 別紙「学則」第 14 条とおり ● 修了評価の方法、評価者、再履修等の基準 別紙「学則」第 14 条、第 15 条とおり
	実習施設	● 協力実習機関の名称・住所等☆ ● 協力実習機関の介護保険事業の概要☆ ● 協力実習機関の実習担当者名 ● 実習プログラムの内容、実習プログラムの特色 ● 実習中の指導体制・内容（振り返り、実習指導等） ● 協力実習機関における延べ人数 ※実習の予定なし
	その他	● 資格取得後に就業可能な職務 ・訪問介護 ・グループホーム ・特別養護老人ホーム ・病院　　等
講師情報		● 名前 ● 略歴、現職、資格、担当科目 別紙「講師履歴書」参照
実績情報		● 過去の研修実施回数（年度ごと） 令和 4 年：1 回　令和 5 年：9 回　令和 6 年:8 回　令和 7 年 8 回 ● 過去の研修延べ参加人数（年度ごと） 令和 4 年：2 名　令和 5 年：45 名　令和 6 年：47 名　令和 7 年：90 名
連絡先など		● 申し込み・資料請求先 土屋ケアカレッジ運営事務局 TEL:050-3138-2024 Mail:college@care-tsuchiya.com Web: https://tcy-carecollege.com

		● 法人の苦情対応者名・役職・連絡先 取締役 兼　土屋ケアカレッジ代表 五十嵐　憲幸 TEL:050-3138-2024 ● 事業所の苦情対応者名・役職・連絡先 土屋ケアカレッジ札幌教室 課程編成責任者　加納　康行 TEL:090-9142-3392

土屋ケアカレッジ　介護職員初任者研修　学則

（事業者の名称・所在地）

第 1 条　本研修は次の事業者が実施する

株式会社　土屋

岡山県井原市井原町 192 番地 2 久安セントラルビル 2 階

（目的）

第 2 条　介護に携わる者が、業務を遂行する上で最低限の知識・技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを身につけ、基本的な介護業務を行うことができるようにすることを目的として実施する。

（研修課程及び形式）

第 3 条　研修課程及び形式は次の通りとする。

研修課程	事業所の所在地	研修形態	修了年限	研修期間	定員（人）	受講対象者
介護職員初任者研修課程 昼間通信制	札幌市	通信	3ヶ月	13日間	20名	一般

（研修事業の名称）

第 4 条　研修名称は『土屋ケアカレッジ介護職員初任者研修』とし、令和 8 年度は 7 回研修を実施する。各研修事業名称については、第 5 条のとおりにする。

（研修実施期間）

第 5 条　令和 8 年度の研修事業は、次のとおり実施する。

ただし、開講必要人数は 3 名とする。

区分	実施期間	募集定員
土屋ケアカレッジ介護職員 初任者研修 5 月通常コース	令和 8 年 5 月 10 日（日） ～令和 8 年 8 月 2 日(日)　3 ヶ月	20 名
土屋ケアカレッジ介護職員 初任者研修 6 月通常コース	令和 8 年 6 月 10 日（水） ～令和 8 年 9 月 9 日(水)　3 ヶ月	20 名
土屋ケアカレッジ介護職員 初任者研修 8 月通常コース	令和 8 年 8 月 23 日（日） ～令和 8 年 11 月 15 日(日)　3 ヶ月	20 名
土屋ケアカレッジ介護職員 初任者研修 9 月通常コース	令和 8 年 9 月 30 日（水） ～令和 8 年 12 月 23 日(水)　3 ヶ月	20 名

土屋ケアカレッジ介護職員 初任者研修11月通常コース	令和8年 11月22日（日） ～令和9年 2月28日(日)　3ヶ月	20名
土屋ケアカレッジ介護職員 初任者研修1月通常コース	令和9年 1月6日（水） ～令和9年 3月31日(水)　3ヶ月	20名
土屋ケアカレッジ介護職員 初任者研修【外国籍】1月通常コー	令和9年 1月10日（日） ～令和9年 4月4日(日)　3ヶ月	20名
土屋ケアカレッジ介護職員 初任者研修3月通常コース	令和9年 3月7日（日） ～令和9年 6月6日(日)　3ヶ月	20名
合計		160名

（受講対象者）

第6条　受講対象者は次の者とする。
(1) 北海道内在住・在勤で通学可能な者
(2)外国籍を有する者で本講座を受講することができる者は、
日本語能力試験N3クラス以上、またはそれに相当する日本語能力を有するものとする。

（研修参加費用）
第7条　研修参加費用は次のとおりとする。（金額はすべて税込）
(1) 受講料　29,000円（テキスト代、傷害・賠償保険料含む）
(2) 補講料　補講：原則無料とする。
(3) 納付方法　一括納入
(4) 納付期限　受講開始当日開講前まで
(5) キャンセルその他　「特定商取引法に基づく表示」によるものとする。
（ホームページ掲載）
（使用教材）
第8条　研修に使用する教材は次のとおりとする
介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版株式会社）

（研修カリキュラム）
第9条　研修を修了するために履修しなければならないカリキュラムは、別紙1「研修カリキュラム表」のとおりとする。

（研修会場）
第10条　前条の研修を行うために使用する講義および演習会場は、別紙2「研修会場一覧」のとおりとする。

（担当講師）
第 11 条　研修を担当する講師は添付 3 号様式「講師一覧」のとおりとする。
（募集手続き）
第 12 条　募集手続きは次のとおりとする。
（1）申込み方法：電話・メール・Web にて受付。運営事務局は受付後、受講者に受講決定通知をメールにて送付。
申込み先：土屋ケアカレッジ運営事務局
TEL：050-3138-2024
Mail:college@care-tsuchiya.com
Web: https://tcy-carecollege.com
受講決定方法：申し込み受付後定員調整の上決定
（応募者多数の場合の決定方法：申込順）
（2）　当社は、書類審査の上、受講者の決定を行い受講の決定を受講者あてに通知する。
（3）受講の決定を受け取った受講者は、指定の期日までに受講料等を納入する。
（4）当社は、受講料等の納入を確認した後、初回授業の際に教材を手渡しする。

（科目の免除）
第 13 条　科目の免除についてはこれを認めない。

（通学・通信形式の実施方法）
第 14 条 通学形式については、次のとおり実施する。
（１）学習方法
対面による面接授業の実施。
実施場所：土屋ケアカレッジ札幌教室
（２）評価方法
評価者は資格を有する担当講師とする。
科目の研修をすべて修了し、介護に必要な基礎的知識の理解の確認（口頭試験）を受け、生活支援技術の習得状況を確認（実技試験）した上で、修了時評価を受けた後、筆記試験の評価を受ける。
終了筆記試験の認定基準は以下の通り。
(A=90 点以上、B=80～89 点、C=70～79 点、D=70 点未満)
尚、評価 C 以上を合格とする。
（３）個別学習への対応方法
受講期間中、随時講師への質問・相談を受け付ける。

通信形式については、次のとおり実施する。
（１）学習方法
通信課題の教材はテキストより抽出した正誤問題並びに記述及び論述問題の筆記課題とする。添削課題を提出期限までに提出することとする。（提出日 3,5,7,9 日目）ただし、合格点に達しない場合は、合格点に達するまで再提出を求める。
（２）評価方法
添削課題については、課題の理解度及び記述の的確性、論理性に応じて、担当講師が A、B、C、D の評価を行うこととする。

(A=90 点以上、B=80～89 点、C=70～79 点、D=70 点未満)
尚、評価 C 以上を合格とする。

（３）指導体制・個別学習への対応方法
受講生の質問については、電話、メール、FAX（番号：050-3457-9334)で受け付ける。
指導においては添削責任者が個別で対応する。

（修了の認定）
第 15 条　修了の認定は、次の修了評価（成績評価及び筆記試験）を行った上、修了認定会議において基準に達したと認められた者に対して行う。

(1) 成績評価は、北海道介護員初任者研修等実施要綱別紙 8「各項目の到達目標、評価、内容」において定められている「修了時の評価のポイント」に沿って、担当講師が科目ごとに行い、各受講者の知識・技術等の習得度に基づいて項目全体の評価を行う。また、介護に必要な基礎的知識の理解度及び生活支援技術の習得状況の評価については、併せて実技試験も行う。実技試験は、「９　こころとからだのしくみと生活支援技術」の面接授業内で行う。成績評価で知識・技術等の習得が十分でないと評価された者は必要に応じて補講等を行い、筆記試験より前に到達目標に達するように支援する。
(2) 筆記試験は、第 9 条に定めるカリキュラムを全て履修した者に対して行う。
(3) 評価基準は次のとおり理解度及び実技習得度の高い順に A、B、C、D の 4 区分で評価したうえで、C 以上の評価の受講者で評価基準を満たしたものとして認定する。評価基準に達しない場合には、必要に応じて補講などを行い、基準に達するまで再評価を行う。

認定基準（100 点を満点とする）
A＝90 点　B=80～89 点、C=70～79 点、D=70 点未満

（研修欠席者及び早退者の扱い）
第 16 条-1　理由の如何にかかわらず、研修開始から 10 分以上遅刻した場合は欠席とする。
また、やむを得ず欠席する場合には必ず「欠席届」を提出する。
第 16 条-2　研修を途中半ばにして早退せざるを得なくなった者ついて第 17 条のとおりとする。
第 16 条 - 3　出欠確認について来校時出席簿への捺印又は記名による記録並びに教室担当者の確認によるものとする。

（補講の取り扱い）
第 17 条　研修の一部を欠席した者で、やむを得ない事情があると認められる者については、土屋ケアカレッジ所属の当該科目の講師要件を満たす講師が補講を行うことにより当該科目を修了したものとみなす。

（受講の取り消し）
第 18 条　次に該当する者は、受講を取り消すことができる。
（1）学習意欲が著しく欠け、修了の見込みがないと認められる者
（2）研修の秩序を乱し、その他受講者としての本分に反した者
（3）反社会的勢力またはその関係者と認められる者
（4）　上記の 3 項を含み、その他の学則に違反がない者で、個人の日本語能力、学習能力に問題があり、修了の見込みがないと当事業所から判断された場合。 この場合に限り、受講料の半額返金を行い退学とする。
（5）　その他この学則または、これに基づく規定に違反した場合。

（修了証明書の交付）
第 19 条　修了を認定された者には、当社において北海道介護員初任者研修等実施要綱 12 に規定する修了証明書及び修了証明書（携帯用）を交付する。

（修了者管理の方法）
第 20 条　修了者管理については、つぎにより行う。
（1）修了者を修了者台帳に記載し永久保存するとともに、北海道が指定した様式に基づき知事に報告する。
（2）修了証明書の紛失等があった場合は、修了者の申し出により再発行を行う。
　　修了証の再発行手数料は 2,000 円＋発送費用（代引き手数料＋送料）とする。

（公表する情報の項目）
第 21 条　北海道介護員初任者研修等実施要綱 13 に規定する情報の公表に基づき、当社ホームページ（https://tcy.co.jp/）において開示する内容は、以下のとおりとする。
（1）研修機関情報
　法人格、法人名称、住所、電話番号、代表者名、教育事業の概要、法人財務情報、事業所の名称、事業所の住所、理念、学則、研修施設、設備、在籍講師数（専任・兼任別）、沿革、事業所の組織
（2）研修事業情報
　研修の概要（対象、研修スケジュール、定員、実習の有無、研修受講手続き、費用、留意事項）、研修カリキュラム（科目別シラバス、担当講師一覧、研修の特色）、通信講習の科目及び時間、指導体制・指導方法、修了評価（評価方法、評価者、再履修の基準）、実績情報（過去の研修実施回数、研修修了者数）、連絡先等（申し込み先、資料請求先、苦情対応部署の連絡先）、研修評価（受講生アンケートの結果、自己評価）

（研修事業執行担当部署）
第 22 条　本研修事業は、当社土屋ケアカレッジにて執行する。

（その他留意事項）
第 23 条　研修事業の実施に当たり、次のとおり必要な措置を講じることとする。
（1）研修の受講に際して、受講申し込み受付時または研修開始日の開校式までに本人確認を行う。本人確認の方法は、以下の公的証明書の提出等により行うものとし、本人確認ができない場合は、受講の拒否または修了の認定を行わないものとする。
①戸籍謄本、戸籍抄本もしくは住民票の提出
②住民基本台帳カードの提示
③在留カード等の提示
④資格証明書の提示
⑤運転免許証の提示
⑥パスポートの提示
⑦年金手帳の提示
⑧国家資格等を有する者については免許証または登録証の提示
⑨マイナンバーカード等の提示

（2）研修に関して下記の苦情等の相談窓口を設けて研修実施部署と連携し、苦情及び事故が生じた場合には迅速に対応する。
苦情対応部署：土屋ケアカレッジ受講生担当窓口　電話 050-3138-2024

（3）当事業所は、個人情報の保護の重要性を認識し、研修の実施に当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報の取扱いを適正に行う。受講者とは電磁的方法もしくは書面により同意を得る。

（4）当事業所は、都道府県に研修実施状況を報告する場合を除き、研修の実施に際して知り得た個人情報を研修目的以外のために利用し、又は第三者に提供しない。

（5）講師または受講生について、他法人が経営する事業所、施設への勧誘行為等を禁止する。

（施行細則）
第 24 条　この学則に必要な細則並びにこの学則に定めのない事項で必要があると認められる時は、当社がこれを定める。

（附則）
この学則は令和5年 1月1日から施行する。
（附則）
この学則は令和5年 4月1日から施行する。
（附則）
この学則は令和5年 5月15日から施行する。
（附則）
この学則は令和5年 7月1日から施行する。
（附則）
この学則は令和5年 9月1日から施行する。
（附則）
この学則は令和5年 11月1日から施行する。
（附則）
この学則は令和6年 1月1日から施行する。
（附則）
この学則は令和6年 2月1日から施行する。
（附則）
この学則は令和6年 9月17日から施行する。
（附則）
この学則は令和7年 1月1日から施行する。
（附則）
この学則は令和7年 11月1日から施行する。
（附則）
この学則は令和8年 1月1日から施行する。
（附則）
この学則は令和8年 4月3日から施行する。
（附則）
この学則は令和8年 10月13日から施行する。

スケジュール表

日数	時間	時間数	区分	科目名	科目番号
①	9:00～9:30	30 分		入校式（オリエンテーション）	
	9:30～12:40	3 時間	講・演	多様なサービスの理解	(1)－①
	13:40～16:50	3 時間	講・演	介護職の仕事内容や働く現場の理解	(1)－②
	17:00～18:00	1 時間	講・演	人権と尊厳を支える介護	(2)－①
②	9:00～10:00	1 時間	講・演	自立に向けた介護	(2)－②
	10:00～11:00	1 時間	講・演	介護職の役割、専門性と他職種との連携	(3) -①
	11:10～12:10	1 時間	講・演	介護職の職業倫理	(3) -②
	13:10～14:10	1 時間	講・演	介護職の安全	(3) -④
	14:00～15:10	1 時間	講・演	介護保険制度	(4)－①
	15:20～16:20	1 時間	講・演	障害福祉制度及びその他制度	(4)－③
	16:30～17:30	1 時間	講・演	介護におけるコミュニケーション	(5)－①
③	9:00～11:00	2 時間	講・演	介護におけるチームのコミュニケーション	(5)－②
	11:10～12:10	1 時間	講・演	認知症を取り巻く状況	(7)－①
	13:10～14:10	1 時間	講・演	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	(7)－③
	14:20～16:20	2 時間	講・演	老化に伴うこころとからだの変化と日常	(6)－①
	16:30～17:30	1 時間	講・演	高齢者と健康	(6)－②
	17:30～18:30	1 時間	講・演	障害の基礎的理解	(8)－①
④	9:00～10:00	1 時間	講・演	家族への支援	(7)－④
	10:00～11:00	1 時間	講・演	家族の心理、かかわり支援の理解	(8)－③
	11:10～15:10	3 時間	講・演	介護の基本的な考え方	(9)－①
	15:20～17:20	2 時間	講・演	介護に関するこころのしくみの基礎的理解	(9)－②
	17:30～19:30	2 時間	講・演	介護に関するからだのしくみの基礎的理解	(9)－③

⑤	9:00～12:10	3 時間	講・演	睡眠に関連したこころからだのしくみと自立に向けた介護	(9)－⑪
	13:10～18:30	5 時間	講・演	整容に関連したこころからだのしくみと自立に向けた介護	(9)－⑥
⑥	9:00～18:00	7.5 時間	講・演	移動・移乗に関連したこころからだのしくみと自立に向けた介護	(9)－⑦
⑦	9:00～18:00	7.5 時間	講・演	食事に関連したこころからだのしくみと自立に向けた介護	(9)－⑧
⑧	9:00～18:00	7.5 時間	講・演	入浴、清潔保持に関連したこころからだのしくみと自立に向けた介護	(9)－⑨
⑨	9:00～18:00	7.5 時間	講・演	排泄に関連したこころからだのしくみと自立に向けた介護	(9)－⑩
⑩	9:00～10:00	1 時間	講・演	生活と家事	(9)－④
	10:00～11:00	1 時間	講・演	快適な居住環境整備と介護	(9)－⑤
	11:10～16:20	4 時間	講・演	死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護	(9)－⑫
⑪	9:00～16:30	6 時間	講・演	介護過程の基礎的理解	(9)－⑬
⑫	9:00～16:30	6 時間	講・演	総合生活支援技術演習	(9)－⑭
⑬	9:00～11:10	2 時間	講・演	振り返り	(10)－①
	11:20～14:30	2 時間	講・演	就業への備えと研修修了後における継続的な研修	(10)－②
	14:30～15:30	1 時間	講・演	修了試験	
	15:30～16:00	30 分	講・演	修了式	
合計		91	時間		

研修会場一覧

事業者名　土屋ケアカレッジ札幌教室

研修課程　介護職員初任者研修　通信課程

	会場名 所在地	定員 面積（㎡） 借上げ	（演習会場が異なる場合） 会場名 所在地	定員 面積（㎡） 借上げ
1	土屋ケアカレッジ札幌教室 北海道札幌市白石区東札幌２条５丁目 7-8　３D コート３A	10 人 60 ㎡ 賃貸	左記と同じ 左記と同じ	
2	土屋ケアカレッジ札幌教室 北海道札幌市白石区東札幌２条５丁目 7-8　３D コート４階	10 人 200 ㎡	左記と同じ 左記と同じ	
3				
4				
5				

6				

使 用 備 品 一 覧

事業者名　土屋ケアカレッジ札幌教室
研修課程　介護職員初任者研修 通信課程

日程	持ち物	備考
1日目	テレビ＋DVD プレイヤー	テキスト、プリント、課題の配布
2日目	テレビ＋DVD プレイヤー	
3日目	テレビ＋DVD プレイヤー	
4日目	テレビ＋DVD プレイヤー	
5日目	パジャマ　（スウェット）　和式寝巻 バスタオル　鏡　ブラシ	・フェイスタオル（枕用） ・軍手片手（麻痺用）
6日目	テレビ＋DVD プレイヤー （ポジショニング用）ビーズクッション ナーセントパット　そば殻まくら　バスタオル フェイスタオル	・フェイスタオル（枕用） ・軍手片手（麻痺用）
7日目	椅子　テーブル　介助用エプロン　紙コップ（中、小）　透明プラコップ　ストロー　プラスチックスプーン　お盆＋滑り止めマット　ビーズクッション　バスタオル　アイマスク　箱ティッシュ　とろみ剤（スティック）ユニバーサルスプーン　箸　ぞうくん　　片麻痺用食器　吸い飲み　ガーグルベースン　ポリ袋　　スポンジブラシ　水 500ml　ほうじ茶 500ml　小さいクッキー（2～3種類）　カップ麺　おかゆ（フリーズドライ）	・フェイスタオル（枕用） ・軍手片手（麻痺用）
8日目	簡易浴槽　シャワーチェア　入浴台　浴槽台　手すり　洗面器　　手桶　滑り止めマット　ボディソープ リンスインシャンプー　シャワーヘッド　ビニールシート　ポリ袋１０ℓ４５ℓ&７０ℓ　バケツ　湯温計　バスタオル　ケリーパット（新聞紙　ポリ袋 45ℓ　洗濯ばさみ　輪ゴム　セロテープ）シャンプー、ドライヤー	・軍手片手（麻痺用）
9日目	車いす　ポータブルトイレ　トイレットペーパー　リハパン　テープ式紙おむつ　尿取りパッド　陰部洗浄ボトル　バケツ　ディスポ手袋　バスタオル　清拭用タオル　ズボン　尿器　便器	・フェイスタオル（枕用） ・軍手片手（麻痺用）
10日目		
11日目		

12 日目	更衣　排泄　車いすへの移乗 パジャマ　車いす　ポータブルトイレ　トイレットペーパー　リハパン　テープ式紙おむつ　尿取りパッド　陰部洗浄ボトル　バケツ　ディスポ手袋　バスタオル　清拭用タオル	・フェイスタオル （枕用） ・軍手片手 （麻痺用）
13 日目		

カリキュラム(通信課程)

事業者名　株式会社 土屋

研修事業の名称　土屋ケアカレッジ介護職員初任者研修

１　職務の理解（ 6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
多様なサービスの理解	3 時間	講義および演習：介護保険や保険外サービスについて講義を行い、グループディスカッションを行う。
介護職の仕事内容や働く現場の理解	3 時間	講義および演習：講義にて様々な職場の紹介をし、後半は演習にてそれぞれどんな職場で働くことを希望するか小グループに分かれて議論する。
合計	6 時間	

２　介護における尊厳の保持・自立支援（ 9 時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
人権と尊厳を支える介護	4.5 時間	1 時間	3.5 時間	1	講義・演習：人権と尊厳について講義を行い、演習では尊厳を支えるということはどういうことかを小グループで話し合う。 通信講習：人権と尊厳について学び、尊厳を支えるということはどういうことかについて理解を深める。
自立に向けた介護	4.5 時間	1 時間	3.5 時間	1	講義・演習：自立に向けた介護について講義を行い、本当の自立支援というのはどういうことかについてグループディスカッションを行う。 通信講習：自立に向けた介護について学び、本当の自立支援というのはどういうことかについて理解を深める。
合計	9 時間	2 時間	7 時間		

３　介護の基本（ 6 時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
介護職の役割、専門性と多職種との連携	2 時間	1 時間	1 時間	2	講義・演習：講義を行った後、演習では家族による介護と専門職による介護の違いになどについてグループで話し合う。 通信講習：介護職の役割、専門性と多職種との連携の重要性を学び、家族による介護と専門職による介護の違いになどについて理解を深める。
介護職の職業倫理	2 時間	1 時間	1 時間	2	講義・演習：講義を行ったあと、演習にて介護職としての社会的責任などについてグループで話し合う。 通信講習：介護職の職業倫理について学び、介護職としての社会的責任などについて理解を深める。
介護における安全の確保とリスクマネジメント	1 時間	0 時間	1 時間	2	通信講習：介護における安全の確保とリスクマネジメントについて学び、事故や感染などのリスクについて理解を深める。
介護職の安全	1 時間	1 時間	0 時間		講義・演習：講義を行ったあと、演習にてストレスマネジメントなどについて意見を出し合う。
合計	6 時間	3 時間	3 時間		

４　介護・福祉サービスの理解と医療との連携（ 9 時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
介護保険制度	3 時間	1 時間	2 時間	2	講義・演習及び通信講習：介護保険制度について講義を行い、演習にて制度のあり方などについてグループで議論する。 通信講習：介護保険制度について学ぶ。
医療との連携とリハビリテーション	3 時間	0 時間	3 時間	2	通信講習：医療との連携の重要性を学び、医療行為の考え方や、一定の要件のもと介護職が行える医療行為について理解を深める。
障害福祉制度及びその他制度	3 時間	1 時間	2 時間	2	講義・演習及び通信講習：基本的な考え方などの講義を行ったあと、演習にて障害福祉サービスなどのあり方についてグループディスカッションを行う。 通信講習：障害福祉制度及びその他制度の基本的な考え方を学び、障害福祉サービスなどのあり方について理解を深める。
合計	9 時間	2 時間	7 時間		

５　介護におけるコミュニケーション技術（ 6 時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
介護におけるコミュニケーション	3 時間	1 時間	2 時間	3	講義・演習及び通信講習：基本的なポイントなどの講義を行い、演習にて言語的、非言語的コミュニケーションを体験し、伝えられない要因と重要性などについて、グループで話し合いをする。 通信講習：基本的なポイントなどを学び、言語的、非言語的コミュニケーションの理解を深める。
介護におけるチームのコミュニケーション	3 時間	2 時間	1 時間	3	講義・演習及び通信講習：記録や報告の重要性などの講義を行い、演習にて記録の記載方法を体験し、内容・方法を検討し発表までつなげる。 通信講習：高齢者と健康について学び、疾病の症状や訴え、生活上の留意点などについて理解を深める。
合計	6 時間	3 時間	3 時間		

６　老化の理解（ 6 時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要

老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	2時間	1時間	3	講義・演習及び通信講習：老化に伴いこころとからだの変化の講義を行い、演習にて様々な変化に着目した心理的特徴などについてグループディスカッションを行う。 通信講習：老化に伴いこころとからだの変化について学び、様々な変化に着目した心理的特徴などについて理解を深める。
高齢者と健康	3時間	1時間	2時間	3	講義・演習及び通信講習：講義を行ったあと、演習にて疾病の症状や訴え、生活上の留意点などについてグループで議論する。 通信講習：高齢者と健康について学び、疾病の症状や訴え、生活上の留意点などについて理解を深める。
合計	6時間	3時間	3時間		

7　認知症の理解（ 6 時間）

項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
認知症を取り巻く状況	2時間	1時間	1時間	3	講義・演習及び通信講習：ケアの理念などの講義を行い、演習にて現在の状況やケアの考え方についてグループで議論する。 通信講習：ケアの理念などを学び、現在の状況やケアの考え方について理解を深める。
医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	0時間	2時間	3	通信講習：医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理を学び、健康管理のあり方などについて理解を深める。
認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1時間	1時間	0時間		講義・演習：認知症利用者の生活障害などの講義を行い、演習にて具体的な関わり方についてグループで議論する。
家族への支援	1時間	1時間	0時間		講義・演習：家族への支援の講義を行い、演習にて家族のストレスやレスパイトケアなどあり方についてグループで議論する。
合計	6時間	3時間	3時間		

8　障害の理解（ 3 時間）

項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
障害の基礎的理解	1時間	1時間	0時間		講義・演習：障害の基礎について講義を行い、演習にて概念やICFについてグループ討議する。

障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1時間	0時間	1時間	4	通信講習：障害の医学的側面などを学び、各障害の特徴や支援の考え方について理解を深める。
家族の心理、かかわり支援の理解	1時間	1時間	0時間		講義・演習：障害者家族への支援の講義を行い、演習にてストレスやレスパイトケアなどについてグループで議論する。
合計	3時間	2時間	1時間		

９　こころとからだのしくみと生活支援技術（ 75 時間）

	項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
基本知識の学習	介護の基本的な考え方	4時間	3時間	1時間	4	講義・演習：介護の基本的な考えについて講義を行い、演習にてICFや法的根拠の基づく介護のあり方についてグループで議論する。 通信講習：介護の基本的な考えについて理解を深める。
	介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3時間	2時間	1時間	4	講義・演習及び通信講習：こころのしくみについて講義行い、演習にて記憶の構造や意欲を支援に結びつける方法についてグループで議論する。
	介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3時間	2時間	1時間	4	講義・演習及び通信講習：からだのしくみについて講義を行い、演習にてグループディスカッションを通じて人体の構造やボディメカニクスを学ぶ。
生活支援技術の講義・演習	生活と家事	2時間	1時間	1時間	4	講義・演習：講義にて家事と生活の理解を行い、演習では生活と家事についてグループで議論する。 通信講習：家事と生活の理解を深める。
	快適な居住環境整備と介護	2時間	1時間	1時間	4	講義・演習：住居環境の基礎知識を講義にて行い、演習にて身体状況に合わせた介護や環境整備についてグループで議論する。 通信講習：住居環境の基礎知識、身体状況に合わせた介護や環境整備について理解を深める。
	整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	5時間	1時間	4	講義・演習：講義にて整容の意義を行い、実技演習では着脱介助などのロールプレイを行う。 通信講習：整容の意義や着脱介助についての理解を深める。

	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8.5 時間	7.5 時間	1 時間	4	講義・演習：講義にて移動、移乗に関するからだのしくみを行い、実技演習では移乗、移動介助のロールプレイを行う。 通信講習：移動、移乗に関するからだのしくみの理解を深める。
	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8.5 時間	7.5 時間	1 時間	4	講義・演習：講義にて食事の意味や環境整備の方法を行い、実技演習では食事介助のロールプレイを行う。 通信講習：食事の意味や環境整備の方法、食事介助の理解を深める。
	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8.5 時間	7.5 時間	1 時間	4	講義・演習：講義にて入浴や清潔の意味や環境整備の方法を行い、実技演習では全身清拭や部分浴のロールプレイを行う。 通信講習：入浴や清潔の意味や環境整備の方法、全身清拭や部分浴等の理解を深める。
	排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8.5 時間	7.5 時間	1 時間	4	講義・演習：講義にて排泄の意味や環境整備の方法を行い、実技演習では排泄介助等のロールプレイを行う。 通信講習：排泄の意味や環境整備の方法、排泄介助等の理解を深める。
	睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	4 時間	3 時間	1 時間	4	講義・演習：講義にて睡眠や体位変換の意味や環境整備の方法を行い、実技演習ではベッドメイキングや体位変換のロールプレイを行う。 通信講習：睡眠や体位変換の意味や環境整備の方法の理解を深める。
	死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護	5 時間	4 時間	1 時間	4	講義・演習：講義にてターミナルケアの考え方や留意点を行い、演習では対応方法や介護職の役割についてグループで話し合う 通信講習：ターミナルケアの考え方や留意点、対応方法や介護職の役割について理解を深める。
生活支援技術演習	介護過程の基礎的理解	6 時間	講義・演習：講義にて介護過程の目的や意義を行い、演習では個別援助計画の作成などを実際にやってみて、介護過程の展開を学ぶ。			
	総合生活支援技術演習	6 時間	講義・演習：講義にて事例の意義や留意点を行い、演習にて事例検討などを実際にやってみて、事例検討に基づく一連の介護技を学ぶ。知識と技術の評価テストを行う。			
実習		時間				
	合計	75 時間	63 時間	12 時間		

１０　振り返り（ 4 時間）

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法

振り返り	2 時間	講義および演習：講義にて研修での学びを振り返り、今後継続して学ぶべきことなどの検討をした後、発表までつなげ理解を深める。
就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2 時間	講義および演習：講義にて働く現場における継続的学習などを行い、演習にてキャリアパスや OJT などについて議論し、理解を深める。
合計	4 時間	
全カリキュラム合計時間	130 時間	

講　師　一　覧

土屋ケアカレッジ札幌教室

事業所の所在地　　北海道札幌市白石区東札幌二条５丁目 7-8

3Dコート３A号室

講師調書番号	氏名	担当科目（項目）	資格名	専兼別	備考
1	松田　正良	別表参照	介護福祉士	兼任	
2	佐々木義尚	別表参照	介護福祉士	兼任	
3	大谷るり	別表参照	介護福祉士	兼任	
4	田中真智子	別表参照	介護福祉士	兼任	
7	辻百合香	別表参照	正看護師	兼任	
8	加納　康行	別表参照	介護福祉士	兼任	添削責任者及び面接指導者
11	三原清美	別表参照	正看護師	兼任	
12	山本富士美	別表参照	介護福祉士	兼任	
14	遠藤元子	別表参照	介護福祉士	兼任	
15	大谷昌美	別表参照	介護福祉士	兼任	
16	若﨑一恵	別表参照	介護福祉士	兼任	
17	船水敦子	別表参照	介護福祉士	兼任	
19	鈴木真人	別表参照	正看護師	兼任	
20	湯田佐和子	別表参照	正看護師	兼任	

21	大橋陽子	別表参照	正看護師	兼任	
22	小田明江	別表参照	正看護師	兼任	
23	田井　秀典	別紙参照	介護福祉士	兼任	
24	萬　孝博	別紙参照	介護福祉士	兼任	
25	本庄谷　治美	別紙参照	介護福祉士	兼任	
26	小野　勝美	別紙参照	介護福祉士	兼任	

【介護講師担当科目】別表

1　　職務の理解
2　　介護における尊厳の保持・自立支援
3　　介護の基本
4-1　介護保険制度
4-3　障害者総合支援制度およびその他制度
5　　介護におけるコミュニケーション技術
6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常
7-1　認知症を取り巻く状況
7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常
7-4　家族の理解
8-3　家族の心理、かかわり支援の理解
9　　こころとからだのしくみと生活支援技術
10　振り返り

【看護講師担当科目】別表

1-1　多様なサービスの理解	7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常
1-2　介護職の仕事内容や働く現場の理解	7-4　家族への支援
2-1　人権と尊厳を支える介護	8-1　障害の基礎的理解
2-2　自立に向けた介護	8-2　障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的理解
3-1　介護職の役割、専門性と多職種との連携	
3-2　介護職の職業倫理	8-3　家族の心理、かかわり支援の理解
3-3　介護における安全の確保とリスクマネジメント	9　　こころとからだのしくみと生活支援技術
3-4　介護職の安全	10　振り返り
4-1　介護保険制度	
4-2　医療との連携とリハビリテーション	
4-3　障害者総合支援制度およびその他制度	
5-1　介護におけるコミュニケーション	
5-2　介護におけるチームのコミュニケーション	
6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常	
6-2　高齢者と健康	
7-1　認知症を取り巻く状況	
7-2　医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	

添削指導及び面接指導の指導方法書

１　添削指導

（１）添削指導の進め方

添削課題(2)、添削課題（3）～(4)、添削課題（5）～（7）、添削課題（8）～（9）を各課題提出期日に提出し、添削責任者が添削返送日までに添削する。
(2)～(9)の各添削課題の合格点は、各 100 点満点中 70 点以上とする。
70 点未満は課題の再提出とする。

（２）通信課題（レポート）

評価者
資格を有する担当講師とする。
学習方法
通信課題の教材はテキストより抽出した正誤問題並びに記述及び論述問題の筆記課題とする。添削課題を提出期限までに提出することとする。（提出日 3,5,7,9 日目）ただし、合格点に達しない場合は、合格点に達するまで再提出を求める。
評価方法
添削課題については、課題の理解度及び記述の的確性、論理性に応じて、担当講師が A、B、C、D の評価を行うこととする。
(A=90 点以上、B=80～89 点、C=70～79 点、D=70 点未満)
尚、評価 C 以上を合格とする。

２　面接指導

面接指導の講義・演習

科目（項目）名	内　　容	研修時間
職務の理解	・介護保険や保険外サービスについて講義を行い、グループディスカッションを行う。 ・講義にて様々な職場の紹介をし、後半は演習にてそれぞれどんな職場で働くことを希望するか小グループに分かれて議論する。	6時間
介護における尊厳の保持・自立支援	・人権と尊厳について講義を行い、演習では尊厳を支えるということはどういうことかを小グループで話し合う。 ・自立に向けた介護について講義を行い、本当の自立支援というのはどういうことかについてグループディスカッションを行う。	2時間
介護の基本	・講義を行った後、演習では家族による介護と専門	3時間

	職による介護の違いになどについてグループで話し合う。 ・講義を行ったあと、演習にて介護職としての社会的責任などについてグループで話し合う。 ・講義を行ったあと、演習にてストレスマネジメントなどについて意見を出し合う。	
介護・福祉サービスの理解と医療との連携	・介護保険制度について講義を行い、演習にて制度のあり方などについてグループで議論する。 ・基本的な考え方などの講義を行ったあと、演習にて障害福祉サービスなどのあり方についてグループディスカッションを行う。	2時間
介護におけるコミュニケーション技術	・基本的なポイントなどの講義を行い、演習にて言語的、非言語的コミュニケーションを体験し、伝えられない要因と重要性などについて、グループで話し合いをする。 ・記録や報告の重要性などの講義を行い、演習にて記録の記載方法を体験し、内容・方法を検討し発表までつなげる。	3時間
老化の理解	・老化に伴いこころとからだの変化の講義を行い、演習にて様々な変化に着目した心理的特徴などについてグループディスカッションを行う。 ・講義を行ったあと、演習にて疾病の症状や訴え、生活上の留意点などについてグループで議論する。	3時間
認知症の理解	・ケアの理念などの講義を行い、演習にて現在の状況やケアの考え方についてグループで議論する。 ・認知症利用者の生活障害などの講義を行い、演習にて具体的な関わり方についてグループで議論する。 ・家族への支援の講義を行い、演習にて家族のストレスやレスパイトケアなどあり方についてグループで議論する。	3時間
障害の理解	・障害の基礎について講義を行い、演習にて概念やICFについてグループ討議する。 ・講義・演習：障害者家族への支援の講義を行い、演習にてストレスやレスパイトケアなどについてグループで議論する。	2時間
こころとからだのしくみと生活支援技術	・介護の基本的な考えについて講義を行い、演習にてICFや法的根拠の基づく介護のあり方についてグループで議論する。 ・こころのしくみについて講義行い、演習にて記	63時間

	憶の構造や意欲を支援に結びつける方法についてグループで議論する。 ・からだのしくみについて講義を行い、演習にてグループディスカッションを通じて人体の構造やボディメカニクスを学ぶ。 ・講義にて家事と生活の理解を行い、演習では生活と家事についてグループで議論する。 ・住居環境の基礎知識を講義にて行い、演習にて身体状況に合わせた介護や環境整備についてグループで議論する ・講義にて整容の意義を行い、実技演習では着脱介助などのロールプレイを行う。 ・講義にて移動、移乗に関するからだのしくみを行い、実技演習では移乗、移動介助のロールプレイを行う。 ・講義にて食事の意味や環境整備の方法を行い、実技演習では食事介助のロールプレイを行う。 ・講義にて入浴や清潔の意味や環境整備の方法を行い、実技演習では全身清拭や部分浴のロールプレイを行う。 ・講義にて排泄の意味や環境整備の方法を行い、実技演習では排泄介助等のロールプレイを行う。 ・講義にて睡眠や体位変換の意味や環境整備の方法を行い、実技演習ではベッドメイキングや体位変換のロールプレイを行う。 ・講義にてターミナルケアの考え方や留意点を行い、演習では対応方法や介護職の役割についてグループで話し合う	
生活支援技術演習	・講義にて介護過程の目的や意義を行い、演習では個別援助計画の作成などを実際にやってみて、介護過程の展開を学ぶ。 ・講義にて事例の意義や留意点を行い、演習にて事例検討などを実際にやってみて、事例検討に基づく一連の介護技術を学ぶ。知識と技術の評価テストを行う。	12時間
振り返り	・講義にて研修での学びを振り返り、今後継続して学ぶべきことなどの検討をした後、発表までつなげ理解を深める。 ・講義にて働く現場における継続的学習などを行い、演習にてキャリアパスや OJT などについて議論し、理解を深める。	4時間

◆指導体制
原則担当科目に準じた講師が講義をおこなう。
必要に応じ、運営責任者が受講生のフォローに入る

講師履歴書

2026 年 7 月 15 日現在

氏名	担当科目	略歴	所有資格
松田正良	1　職務の理解 2　介護における尊厳の保持・自立支援 3　介護の基本 4-1　介護保険制度 4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5　介護におけるコミュニケーション技術 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常 7-1　認知症を取り巻く状況 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族の理解 8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　こころとからだのしくみと生活支援技術 10　振り返り	2015 年 7 月～ 2019 年 7 月 キャリアフィット ケアサービス株式会社 2018年11月～現在 新さっぽろ福祉カレッジ 2022 年 5 月～現在 株式会社土屋 土屋ケアカレッジ	介護福祉士 2008 年 4 月 11 日
佐々木義尚	1　職務の理解 2　介護における尊厳の保持・自立支援 3　介護の基本 4-1　介護保険制度 4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5　介護におけるコミュニケーション技術 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常 7-1　認知症を取り巻く状況 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族の理解 8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　こころとからだのしくみと生活支援技術 10　振り返り	2009 年 7 月～ 2018 年 3 月 (株)スリーコモンズ グループホームせせらぎの森 2019年12月～現在 北海少年院 2022年10月～現在 株式会社土屋 土屋ケアカレッジ	介護福祉士 2005 年 4 月 8 日

大谷　るり	1　　職務の理解 2　　介護における尊厳の保持・自立支援 3　　介護の基本 4-1　介護保険制度 4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5　　介護におけるコミュニケーション技術 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常 7-1　認知症を取り巻く状況 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族の理解 8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　　こころとからだのしくみと生活支援技術 10　振り返り	2015 年 4 月～現在に至る 大原医療福祉専門学校 2015年11月～現在 北海少年院 2018年11月～現在 アイスマイル研修センター 2022年10月～現在 株式会社土屋 土屋ケアカレッジ	介護福祉士 2006 年 3 月 31 日
田中真智子	1　　職務の理解 2　　介護における尊厳の保持・自立支援 3　　介護の基本 4-1　介護保険制度 4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5　　介護におけるコミュニケーション技術 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常 7-1　認知症を取り巻く状況 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族の理解 8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　　こころとからだのしくみと生活支援技術 10　振り返り	2011 年 4 月～現在 大原医療福祉専門学校 2019 年 6 月～現在 北海少年院 2022年10月～現在 株式会社土屋 土屋ケアカレッジ	介護福祉士 2003 年 4 月 11 日
加納康行	1　　職務の理解 2　　介護における尊厳の保持・自立支援 3　　介護の基本 4-1　介護保険制度	2000 年 3 月～2021 年 8 月 初山別村社会福祉協議会	介護福祉士 2017 年 5 月 1 日

	4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5　　介護におけるコミュニケーション技術 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常 7-1　認知症を取り巻く状況 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族の理解 8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　　こころとからだのしくみと生活支援技術 10　振り返り	2021 年 9 月～現在 株式会社　土屋	
山本富士美	1　　職務の理解 2　　介護における尊厳の保持・自立支援 3　　介護の基本 4-1　介護保険制度 4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5　　介護におけるコミュニケーション技術 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常 7-1　認知症を取り巻く状況 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族の理解 8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　　こころとからだのしくみと生活支援技術 10　振り返り	2016 年 5 月～現在 株式会社グランメディコ 2023 年 5 月～現在 株式会社　土屋	介護福祉士 2010 年 4 月 28 日
遠藤元子	1　　職務の理解 2　　介護における尊厳の保持・自立支援 3　　介護の基本 4-1　介護保険制度 4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5　　介護におけるコミュニケーション技術 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常	2019 年 8 月～現在 社会福祉法人北海道光生舎 2022 年 1 月～現在 一般社団法人オフィスサプライ	介護福祉士 2008 年 4 月 18 日

	7-1　認知症を取り巻く状況 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族の理解 8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　　こころとからだのしくみと生活支援技術 10　振り返り	2023 年 5 月～現在 株式会社　土屋	
大谷昌美	1　　職務の理解 2　　介護における尊厳の保持・自立支援 3　　介護の基本 4-1　介護保険制度 4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5　　介護におけるコミュニケーション技術 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常 7-1　認知症を取り巻く状況 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族の理解 8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　　こころとからだのしくみと生活支援技術 10　振り返り	2013 年 1 月～現在 大原学園 2022 年 7 月～現在 パレットケアカレッジ 2023 年 9 月～現在 株式会社　土屋	介護福祉士 2007 年 4 月 1 日
若﨑一恵	1　　職務の理解 2　　介護における尊厳の保持・自立支援 3　　介護の基本 4-1　介護保険制度 4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5　　介護におけるコミュニケーション技術 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常 7-1　認知症を取り巻く状況 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族の理解 8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　　こころとからだのしくみと生活支	2013 年 7 月～現在 札幌エルム共育学院・経専学園 2023年10月～現在 ユースタイルラボトリー株式会社札幌校 2024 年 5 月～現在 株式会社土屋	介護福祉士 2008 年 4 月 14 日

	援技術 10　振り返り		
船水敦子	1　　職務の理解 2　　介護における尊厳の保持・自立支援 3　　介護の基本 4-1　介護保険制度 4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5　　介護におけるコミュニケーション技術 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常 7-1　認知症を取り巻く状況 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族の理解 8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　　こころとからだのしくみと生活支援技術 10　振り返り	2013 年 3 月～ 2024 年 5 月 医療法人耕仁会 介護老人保険施設セージュ 2024 年 5 月～現在 株式会社土屋	介護福祉士 2008 年 4 月 14 日
辻　百合香	1-1　多様なサービスの理解 1-2　介護職の仕事内容や働く現場の理解 2-1　人権と尊厳を支える介護 2-2　自立に向けた介護 3-1　介護職の役割、専門性と多職種との連携 3-2　介護職の職業倫理 3-3　介護における安全の確保とリスクマネジメント 3-4　介護職の安全 4-1　介護保険制度 4-2　医療との連携とリハビリテーション 4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5-1　介護におけるコミュニケーション 5-2　介護におけるチームのコミュニケーション 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常 6-2　高齢者と健康 7-1　認知症を取り巻く状況 7-2　医学的側面から見た認知症の基礎と	2019 年 8 月～現在 有限会社ホットラインワールド 2019年10月～現在 企業主導型保育園ぷれおね 2022 年 9 月～現在 紫明女子学院 2022 年 6 月～現在 株式会社土屋	看護師 2008 年 4 月 16 日

	健康管理 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族への支援 8-1　障害の基礎的理解 8-2　障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり 　　支援等の基礎的理解 8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　　こころとからだのしくみと生活支援技術 10　振り返り		
三原　清美	1-1　多様なサービスの理解 1-2　介護職の仕事内容や働く現場の理解 2-1　人権と尊厳を支える介護 2-2　自立に向けた介護 3-1　介護職の役割、専門性と多職種との連携 3-2　介護職の職業倫理 3-3　介護における安全の確保とリスクマネジメント 3-4　介護職の安全 4-1　介護保険制度 4-2　医療との連携とリハビリテーション 4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5-1　介護におけるコミュニケーション 5-2　介護におけるチームのコミュニケーション 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常 6-2　高齢者と健康 7-1　認知症を取り巻く状況 7-2　医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族への支援 8-1　障害の基礎的理解 8-2　障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり 　　支援等の基礎的理解	2004 年 5 月～2019 年 12 月 北海道総合住宅ケア事業団 2022 年 9 月～現在 あずみ福祉カレッジ 2023 年 3 月～現在 株式会社土屋	看護師 1987 年 10 月 31 日

	8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　　こころとからだのしくみと生活支援技術 10　振り返り		
鈴木真人	1-1　多様なサービスの理解 1-2　介護職の仕事内容や働く現場の理解 2-1　人権と尊厳を支える介護 2-2　自立に向けた介護 3-1　介護職の役割、専門性と多職種との連携 3-2　介護職の職業倫理 3-3　介護における安全の確保とリスクマネジメント 3-4　介護職の安全 4-1　介護保険制度 4-2　医療との連携とリハビリテーション 4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5-1　介護におけるコミュニケーション 5-2　介護におけるチームのコミュニケーション 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常 6-2　高齢者と健康 7-1　認知症を取り巻く状況 7-2　医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族への支援 8-1　障害の基礎的理解 8-2　障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的理解 8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　　こころとからだのしくみと生活支援技術 10　振り返り	2000 年 4 月～2005 年 3 月 札幌太田病院 2007 年 4 月～2012 年 3 月 札幌花園病院 2012 年 4 月～2016 年 3 月 北海道ハイテクノロジー専門学校 2021 年 3 月～現在 学校法人吉田学園 2025年10月～現在 株式会社土屋	看護師 2007 年 4 月 25 日
湯田佐和子	1-1　多様なサービスの理解 1-2　介護職の仕事内容や働く現場の理解 2-1　人権と尊厳を支える介護 2-2　自立に向けた介護	2013 年 4 月～2015 年 3 月 医療法人社団白石明日佳病院	看護師 1987 年 10 月 31 日

	3-1　介護職の役割、専門性と多職種との連携 3-2　介護職の職業倫理 3-3　介護における安全の確保とリスクマネジメント 3-4　介護職の安全 4-1　介護保険制度 4-2　医療との連携とリハビリテーション 4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5-1　介護におけるコミュニケーション 5-2　介護におけるチームのコミュニケーション 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常 6-2　高齢者と健康 7-1　認知症を取り巻く状況 7-2　医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族への支援 8-1　障害の基礎的理解 8-2　障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的理解 8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　こころとからだのしくみと生活支援技術 10　振り返り	2015 年 4 月～現在 医療法人社団三樹会病院 2018 年 7 月～2020 年 10 月 ユースタイルラボラトリー株式会社 2020年11月～現在 株式会社土屋	
大橋陽子	1-1　多様なサービスの理解 1-2　介護職の仕事内容や働く現場の理解 2-1　人権と尊厳を支える介護 2-2　自立に向けた介護 3-1　介護職の役割、専門性と多職種との連携 3-2　介護職の職業倫理 3-3　介護における安全の確保とリスクマネジメント 3-4　介護職の安全 4-1　介護保険制度 4-2　医療との連携とリハビリテーション	2014 年 4 月～2022 年 9 月 恵佑会札幌病院 2024 年 4 月～現在 株式会社えぞ 2024 年 4 月～現在 株式会社ダズリング	看護師 1998 年 4 月 6 日

	4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5-1　介護におけるコミュニケーション 5-2　介護におけるチームのコミュニケーション 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常 6-2　高齢者と健康 7-1　認知症を取り巻く状況 7-2　医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族への支援 8-1　障害の基礎的理解 8-2　障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり 　　支援等の基礎的理解 8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　　こころとからだのしくみと生活支援技術 10　振り返り	2026 年 3 月～現在 株式会社　土屋	
小田明江	1-1　多様なサービスの理解 1-2　介護職の仕事内容や働く現場の理解 2-1　人権と尊厳を支える介護 2-2　自立に向けた介護 3-1　介護職の役割、専門性と多職種との連携 3-2　介護職の職業倫理 3-3　介護における安全の確保とリスク 　　マネジメント 3-4　介護職の安全 4-1　介護保険制度 4-2　医療との連携とリハビリテーション 4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5-1　介護におけるコミュニケーション 5-2　介護におけるチームのコミュニケーション 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常 6-2　高齢者と健康	2015 年 4 月～ 2022 年 3 月 医療法人渓仁会 札幌幌西円山病院 2023 年 8 月～現在 しろくまこどもクリニック 2026 年 3 月～現在 株式会社　土屋	看護師 2003 年 4 月 3 日

	7-1　認知症を取り巻く状況 7-2　医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族への支援 8-1　障害の基礎的理解 8-2　障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり 　　支援等の基礎的理解 8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　　こころとからだのしくみと生活支援技術 10　振り返り		
田井秀典	1　　職務の理解 2　　介護における尊厳の保持・自立支援 3　　介護の基本 4-1　介護保険制度 4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5　　介護におけるコミュニケーション技術 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常 7-1　認知症を取り巻く状況 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族の理解 8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　　こころとからだのしくみと生活支援技術 10　振り返り	2008 年 4 月～現在 株式会社ケアネット徳洲会 2026 年 7 月～現在 株式会社土屋	介護福祉士 2008 年 3 月 31 日
萬孝博	1　　職務の理解 2　　介護における尊厳の保持・自立支援 3　　介護の基本 4-1　介護保険制度 4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5　　介護におけるコミュニケーション技術 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常	2004 年 4 月～現在 社会福祉法人パートナー 2026 年 7 月～現在 株式会社土屋	介護福祉士 2009 年 4 月 17 日

	7-1　認知症を取り巻く状況 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族の理解 8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　　こころとからだのしくみと生活支援技術 10　振り返り		
本庄谷治美	1　　職務の理解 2　　介護における尊厳の保持・自立支援 3　　介護の基本 4-1　介護保険制度 4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5　　介護におけるコミュニケーション技術 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常 7-1　認知症を取り巻く状況 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族の理解 8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　　こころとからだのしくみと生活支援技術 10　振り返り	2017 年 12 月～ 2024 年 9 月 株式会社ライフドリーム 2026 年 8 月～ 株式会社土屋	介護福祉士 2018 年 4 月 26 日
小野勝美	1　　職務の理解 2　　介護における尊厳の保持・自立支援 3　　介護の基本 4-1　介護保険制度 4-3　障害者総合支援制度およびその他制度 5　　介護におけるコミュニケーション技術 6-1　老化に伴うこころとからだの変化と日常 7-1　認知症を取り巻く状況 7-3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常 7-4　家族の理解 8-3　家族の心理、かかわり支援の理解 9　　こころとからだのしくみと生活支	2014 年 6 月～ 2026 年 4 月 富士ライフサポート　株式会社虹の家北郷 2026 年 9 月～ 株式会社土屋	介護福祉士 2008 年 4 月 11 日

	援技術 10　振り返り		